第２部会（建設経済）　　（資料２）

第３次高砂市総合計画　現況調書における考え方・意見等

指針	施策	施策の分野	考え方・意見等
第１章	第１節	2　児童福祉	・ちびっこ遊園ではなく、維持管理の責任部署が明確な児童・街区公園などの充実を。 ・現況のままで安全性、遊具の点検に重点を置く。
	第２節	1　保健衛生	・基本的には市中の雨水溝でもボウフラ防止に蓋をする。
第２章	第４節	1　芸術文化	・村人の大切なイベントであった秋祭りの屋台練りについて、その文化財的な価値を再認識し、高砂の観光として活用してはどうか。勿論、政教分離の原則の上で。 ・例えば、各地域の屋台の交流や屋台資料館などの開設（市内の屋台数や市人口当たりの保有数は、祭りが盛んな播州一帯でもトップの方ではないか） ・文化の振興（文化面の人材発掘）には行政の援助が必要である。万灯祭等の他に秋祭りの屋台は大きな財産（文化）である。
	第７節	1　男女共同参画	・女性の就労を支援するために、鳩山政権での保育園設置基準緩和を機に多様な保育施設・制度の充実を図る。 ・育児、介護、誰がどのような形でするのがよいのかである。 ・男女共同で参加ができる地域社会の構築が必要と思う。
第３章	第１節	1　都市環境	＜施策方向として＞ 山海川に囲まれた高砂は、今後増加するシニア層を主な対象に都市暮らしと田舎暮らしの良さを同時に満喫できる環境が都市環境の基本理念と考える。 ・自然・歴史と調和した都市暮らし ・高齢者にやさしい都市暮らし ・散策が楽しい都市環境 ・車に頼る都市環境から環境にやさしい都市環境へ ・コンパクトシティの実現 （４Km四方の山海川に囲まれた高砂は、他市では困難な全地域一体になった取り組みがしやすい） ＜事業名として＞ ・市・公共施設、住宅地、事業所、各種金融・流通拠点、各種公園など市内の人、モノ、サービスの流れの調査と将来像の立案 ・これらの点をつなぐ公共交通として、じょうとんバスの整備・充実 ・歩道、自転車道、遊歩道の整備、駐輪場の整備、じょうとんバスに自転車が乗せられる ・市内地図の表示（ここがどこで、何がどこにあり、どのようにいけば良いのかが分かる地図の表示） ・市内循環コースの重点整備と　景観巡りの拠点として公園・地区景観等の整備を進める。 ・施設・公園などの地域格差の是正 ・学校の環境教育での世代間交流の促進（例：シニアの経験したエネルギーを使わない豊かな生活を伝える）

指針	施策	施策の分野	考え方・意見等
第３章	第１節	1　都市環境	・自然にマッチした街並み ・県道を挟んだ地区の住居表示をどうすればよいのか。
		2　緑化	＜施策方向として＞ ・生活空間の緑化 ＜事業名として＞ ・道路・歩道の緑化 ・駅前空間の緑化 ・駐車場の緑化（駐車スペースが減ってもよい） ・緑化とは自然を残すことにあると思う。
		3　公園・緑地	＜施策方向として＞ ・市民に親しまれる自然公園の整備 ・里山・里海など自然景観と融合した緑のネットワーク ＜事業名として＞ ・里山・里海の整備、市民・NPOらとの協働 ・花壇や果樹園など市民の手作り公園の推進 ・防災機能を有する必要がある。
		4　環境保全	◎環境問題の施策として、「環境保全」に「低炭素社会（地球温暖化防止）」を追加し、大きく二つの節に分ける必要がある。 ＜施策方向として＞ (1)環境保全の施策方向は「高砂市環境計画」に則り ・安全で快適な環境づくり ・自然と共生する環境づくり ・都市活動と調和した環境づくり ・市民、事業者、市が一体になった環境づくり (2)低炭素社会実現への道筋として別途関連計画「低炭素社会基本計画」を策定する。施策方向としては ・コンパクトシティ（第1節１「都市環境」と重複） ・市民の低炭素ライフスタイル啓蒙活動 ・庁内施設及び関連施設の低炭素化 ・企業との連携 ＜事業名として＞ (2)低炭素社会の実現 ・施策「都市環境」に示す事業を中心にコンパクトシティの推進 ・小学生の環境学習だけではなく、地域住民を対象とした地元企業の関係する太陽光発電の実験施設など環境関連企業ツーリズムの実施 ・公共施設のエネルギー消費の情報開示 ・美化センターの排熱利用（発電の他に、冷却排温水の有効利用として温水療養プール、農業・プレハブ農業、公共施設の暖房などへの活用） ・企業大手の排熱を活用するコンビナートを形成し、温熱を用いた事業を支援する。 ・犬の糞、ポイ捨ての対策が必要である。 ・エコ教室（環境学習）の実施 ・ごみ堆肥化等の取組みの推進

指針	施策	施策の分野	考え方・意見等
第３章	第１節	5　資源リサイクル	(1) リデユース ・ゴミ削減は啓蒙だけでは限界があり、ゴミ収集の有料化も検討してはどうか。 (2) リユース ・まだ使える廃棄品を破砕処理するのではなく、中古品としてフリーマーケットを開いてはどうか。 (3) リサイクル ・再生可能なペットボトルがどのようにリサイクルされているかなど分別後の後処理の情報公開も積極的に進める必要がある。 ・美化センターのリサイクルプラザで、色んな啓蒙が行われているが、市内には竹や木等廃材を利用し工芸品を作るサークル等も多い。そのようなＮＰＯ活動を支援する制度も必要である。 ・市民１人１人の意識の向上が必要である。 ・子どもの頃からモッタイナイ精神を教える必要があり、リサイクル資源の交換の機会を設ける。
		6　ごみ処理	・今後低炭素社会の中で、無制限に焼却量を増やすのは排出ガスだけでなくコスト面からも限界がある。資源リサイクルの項でも指摘したが、ゴミ削減には啓蒙だけでは限界があり、ゴミ収集の有料化は避けて通れない案件である。 ・第一は減量である。次は分別ルールにより排出するように市民に指導する。 ・生ごみと米ぬか等で堆肥を作り、それで野菜づくりをしているグループがある。
		7　し尿処理	
		8　公営住宅	・少しでも実現可能な再生マスタープランの策定が必要である。 ・空家の処理等を検討する。
		9　斎場	・市有墓地の整備の遅れは、問題を複雑にするばかりであり、目標年度を定め、早急に対応すべし。 ・公園墓地への利便性として、じょうとんバスでの利用を検討する。
	第２節	3　防災	・地域住民の所有物である屋台蔵は、構造上耐震性は悪い。この様な半公共建築物についても、耐震化を強く求める制度も必要である。 ・市民の耐震意識の向上が必要である。 ・助成制度があると言えども、個人も財源の有無により、心配だから取組めないところがある。 ・狭隘道路での建築の後退指導強化。
		4　交通安全	・「高砂市交通安全計画」にあるように、少子高齢社会への対応が第一である。 ・三人乗り自転車が認められたが、車道でのその運転は危険が伴う。また、歩道での事故も多い。道路の拡幅と同時に、歩道、自転車道、車道の分離を早急に進める必要がある。 ・裏道でも交通量の比較的多い道路や交差点での違法駐車は、駐車禁止の立て札を置いて駐車し難いようにすると同時に、断固とした取締りが必要である。

指針	施策	施策の分野	考え方・意見等
第３章	第２節	4　交通安全	・市民自らの意識改革（交通安全教育の徹底） ・老いも若きも各人が正しい交通マナーを奨励するよう啓発する。
		6　消費生活	・健康と生活フェアや生活創造大学は廃止となっているが、消費者庁が発足したことでもあり、改めて消費者教育の一端として復活してほしい。低炭素社会時代においても、消費者の意識改革が基本である。 ・使用できる資源の再利用、リフォームもその一端である。 ・多重債務も別の面で消費生活の一部であることの認識が必要である。
	第３節	1　土地利用	・市民事業所の意見にも見られるように、建築・開発指導には、その地域の持つコンセプトを明確にし、それに沿った推進を図るべきである。 ・市街化区域内の遊休地及び調整区域内における利用（希望内容）の把握が必要である。 ・早急に市街化調整区域の各地区のまちづくり手法を再検討する。 ・地域格差が生じないまちづくりを策定する。
		2　市街地整備	・高砂市が目指すまちづくりのビジョンを明確にし、それに沿った推進を図るべきである。 ・用途地域の線引きの失敗のためか元気のない地区が多く目につく（土地利用関係） ・市の発展のためにも時代にあった見直しを指導すべきである。 ・アンケート調査結果も参考にすべきである。
		3　水道	・雨水の活用。公園や庭の散水などに利用するために雨水タンクの設置促進を図る。
		4　下水道	
		5　公共交通	・高齢者社会を迎え、コミュニティバスへの期待、要請は非常に大である。コースによっては午前午後各1本というのは、行きはよくても帰るのに適当な便がないので使えないのが実態である。一度、利用者数だけではなく、利用者層や利用区間等を精査し、利用しやすい環境が整えれば、利用者も増え、採算性も上がる。コミュニティバスの充実によって、市民サービス拠点の合理化も進められ、今後の高砂市まちづくりのキーになる施策である。 ・主な交通機関としてバス等の利便性を高める。
		6　道路	・経済活動上必須となる広域幹線道路の未整備が生活道路を混雑させる結果となっているので、最優先すべきである。 ・生活道路の新設よりも、既存道路の使いやすい、歩いて楽しい歩道の整備に重点を置いてほしい。 ・街路樹や案内標識の整備は、コンパクトシティのコンセプトに則って推進してほしい。 ・住民に身近な道路改善が必要である。

指針	施策	施策の分野	考え方・意見等
第３章	第３節	7　河川港湾	・向島公園、加古川河口を自然と楽しむ親水環境をコンセプトに、再開発すべきである。
		8　駅前広場	・鉄道駅前の開発は、市民の要請も大きく、最優先事項である。また、財源面での課題も大きいので長期ビジョンの下に工程表を策定し、市の意図が見えるように段階的に進めなければならない施策である。 ・駅は高砂市の顔であり、高砂市が目指す方向、コンパクトシティの実現施策を反映する構成でなければならない。 ・アンケート結果から駅前の整備に対する具体的な不満（空間の問題なのか、賑わいの問題なのか）が何であるのか明らかにする必要がある。 ・駅前の整備を進めるためには、優先順位を決め、計画的な対応策を総合計画の中で示していく必要がある。 ・ＪＲ曽根駅関係においては一日も早く整備してほしい。
第４章	第１節	1　農業	・団塊世代の退職が増えるに伴い、貸農園の需要は益々大きくなる。現農地の集約に限界があるなら、日笠山等の中腹にある雑木遊休地を、その開墾を条件に貸農園化することは可能ではないのか。 ・荒れた農地（市街化区域、調整区域）において、前向きに地権者に忠告または指導する。
		2　水産業	
		3　工業	・地域企業の退職者のスキルを生かした起業を支援する制度や拠点が欲しい。 ・これは、技術を生かすことに喜びを感じるＩＴ技術者や情報管理技術者が、スキルを生かした新規事業の起業や地元中小企業へのコンサルタントなど、退職後の第２ステージをボランティアやＮＰＯとして過ごすことを願う団塊の世代等の人材を取り込む制度や拠点のことである。 ・地元企業と横断的に連携して退職技術者の集団を形成し、シルバー人材センターのような組織ではなく、自主的裁量の下で、開発集団を作る。
		4　商業	・補助金事業等ではなく、地産地消を看板に地元の農業、水産業施策と一体になった施策が必要ではないか。
	第２節	1　勤労者対策	・色々な条件の中での勤労者対策が必要である。 ・勤労者の厳しい労働環境と福利厚生の充実が必要である。
	第３節	1　国際交流	
		2　国内交流	・お金のかからない共通課題を見つけ、一歩前進が出来るまで、情報交換の続行、街を元気付ける。

指針	施策	施策の分野	考え方・意見等
第４章	第４節	1　ブライダル都市	・ブライダルに代わる２１世紀の高砂のイメージを表すシンボルを早急に募集などして作り出す。 ・「尉と姥」のシニア版を作り、高齢者とその予備軍がが元気に楽しく生活できる高砂の街を表す標語などはどうか。 ・基本方針のブライダル都市高砂のテーマはすばらしいと思う。
		2　観光	・自転車やウオーキングで市内名所や自然を楽しめる観光コースの設置と、その道順の整備。 ・万灯祭、薪能、秋祭り等、和の文化、ジャズコンサート、ぶらり高砂ラリー等、洋の文化、和、洋、すばらしい観光資源として地域の活性化に繋げていただきたい。
第５章	第１節	1　市民参加	・市民参加には、能動的な参加と受動的な参加が有るが、今後は前者の施策の充実が求められる。 ・住民の自発的、自律的参画を更に進めるためには、各団体の代表者だけでなく、市のプロジェクトの公募に応募した人材をリストアップし、彼らの交流を通じて、市政に参画する風土、リーダーを育てる必要がある。 ・広範囲な情報・知識を必要とする総合計画的なものではなく、各施策の事業関連計画の策定など市民自身が考える具体的な計画作業の機会も必要である。 ・市民と行政が何事も共有の問題として共通語で（方言も混ぜて）話合えることが必要である。 ・１人でも多くの住民が市政に参加することを促進する。一般市民の共通の話題でもって、わかりやすい表現で参画を進める。また、それに伴う人材の育成環境づくりが必要となる。
		3　コミュニティ	・今後退職者が増える団塊の世代は、日常的にネットを活用している。そこで、高砂市のＨＰに登録者が書き込める掲示板をセットし、意見交換をするのも面白い。 ・趣味などではなく、市民が関心を持つ市行政に関わるテーマを設定して、興味を持つ市民のメーリングリストを作成し、ネットコミュニティを育成してはどうか。その中で、市の課題を考え、議論するだけでなく、市や地域への発信が期待できるのではないか。 ・コミュニティセンターは人権教育を中心に活動されているが、更に市民の活動の場としてもっと広く展開してほしい。
市民･事業所アンケート調査			・アンケート結果を第４次総合計画策定にどのように反映させるのか議論・整理する必要がある。